

<p>1 学校教育目標</p> <p>いきいき久間っ子の育成</p> <p>くま・工夫して学ぶ子</p> <p>つ・強くてたくましい子</p> <p>こ・心やさしい子</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>《子どものよさや可能性を引き出し、やる気と夢をもたせる教育活動の推進》</p> <p>～ 笑顔いっぱい「たい」が泳ぐ学校づくり～</p> <p>①<学力の向上>…工夫して学ぶ子プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着と語彙力等の向上 ○交流タイムの設定等表現力及び思考力・判断力を伸ばす授業づくり ○学習環境・授業のユニバーサルデザイン化 ○読書活動の推進 <p>②<健康な体をつくる>…強くてたくましい子プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力向上のための日常的な遊びや運動の習慣化 ○朝食を摂り、早めの就寝を基本とする生活リズムの定着 ○保健指導、安全教育の充実 <p>③<道徳教育の推進><特別支援教育の推進>…心やさしい子プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心に響く道徳の授業づくりを通して道徳心の向上を図る ○ほめて育てる学級経営・生徒指導の推進 <p>④<地域連携の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人材・教材を生かした実践の充実を図る
---	---

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価								学校関係者評価委員会から	
① 「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価 (A～D)	意見 提言
教育活動	●学力向上	基礎学力の向上	・授業が「わかる」「できる」と答える児童を85%以上にする。 ・ICTの活用等を取り入れ、「久間小メソッド」を取り入れた授業を実施する。	・授業の中に、児童の自力解決や教師による個別支援の時間を積極的に確保する。学習への見通しや振り返りの充実を図ることで「久間小メソッド」の学習過程の質を向上させる。 ・全国・県の学習状況調査の結果を分析し、活用して、学習指導に生かす。 ・「すすくすくタイム」は、基礎基本の定着をねらいとして実施する。	A	・「久間小メソッド」を意識した授業づくりについては、アンケートで98%の児童が、「授業が「わかる」「できる」と答えている」。 ・職員間では、職員研修の場を設けて「久間小メソッド」について全職員で共通理解を進め学習過程の質の向上を目指してきた。 ・全国・県の学習状況調査の結果を踏まえ、日々の学習活動に生かすようにし、12月調査でも県平均を大きく上回る結果が出た。	・朝の時間を有効に活用するために算数タイム(火曜)・国語タイム(木曜)を設け、学力向上につなげた。来年度の活用方法を検討する。 ・来年度は、全校で年間通して言語事項の指導を行う問題集やワークを購入する。	A	・「みんながわかる」「みんなが参加する」授業を目指す姿はよいと思う。
		獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成	・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることができる児童を85%以上にする。	・授業の中に自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を確保し、表現する「久間小メソッド」を活用し、表現力の育成を図る。	B	・自分の考えをノートにまとめたり発表したりすることができた児童は78、8%であった。少しずつ数値は伸びてきているが自信を持っている児童が少ない。	・全職員で授業づくりについての研修が進んでいるので交流タイムや振り返りをしっかり書ける力がついてきていると職員は感じている(81.8%)が児童の評価は思ったよりも低い。目標が高すぎたかもしれない。	B	
		校内研究の充実	・特別支援教育を校内研に位置づける。UDの視点をもった授業づくり、学習環境のUD化を図る。 ・学習環境や授業のUD化について理解し、取り組んでいる職員を90%以上にする。	・特別支援教育の視点を踏まえた授業研究会を全校級で実施する。 ・年度当初に、具体的な学習環境のUD化についての取組を確認し、全職員で取り組む。 (前面掲示のクリア化、学級目標・生活目標等は教室背面に掲示、電子黒板のブラックアウト、棚のカーテン化、給食当番表様式の統一化、スケジュールボード、タイムアの活用)を100%行う。	B	・職員の学校評価アンケートによると授業改善に関する項目は、87.5%で前回よりも少し下がった。授業研は継続して取り組んできたが、算数以外の教科での授業づくりの悩みも職員にあるのかもしれない。 ・学習環境のUD化については、90%の達成率であった。中間報告よりも上昇し、目標値に達することができた。	・今後、他の教科の授業づくりについて校内研究を進めるのか、職員の意見を聞きながら方向性を検討していきたい。	B	
		家庭学習習慣の確立	・家庭学習に取り組む方法が分かり、「自ら家庭学習に取り組む」と自信を持って回答する児童を90%以上にする。	・家庭学習チェックシートに取り組む。(10日×年3回) ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間(10分×学年+10分)や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートを掲示する。また、コンテスト(年1回 11月)を実施し、更なる内容の充実を図る。	B	・家庭学習に対する児童の取り組みは85.4%であった。 ・家庭学習チェックシートの全校の結果は94%で、家庭学習の習慣はほぼ定着している。 ・自主学習に取り組む児童も増えてきた。自学コンテストや掲示板的ノートを参考にし、質の高い学習ができるようになった。	・家庭学習として宿題以外に自主学習に取り組んでいる児童も増えてきている。掲示板的の学年のノートを参考にし、その学年の学習を進めていけるようにしたい。 ・どの学年もきちんと宿題を基盤に家庭学習に取り組んでいるはずなのに児童の評価はあまり高くない。	B	・家庭での学習時間を保証すべき。 ・学校塾に甘えていないかと思う。 ・保護者に宿題(家庭学習)の意義を理解してもらおうことが大切では。 ・中学校で定期テストをやめたように、やらされ感が減るように単元を大切に。
		読書活動の充実	・年間「100冊読書」達成する児童を85%以上にする。	・毎日、朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板(全学年)に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭り(年2回やイベント・読み聞かせ(年18回以上)を実施する。	A	・毎朝、全校読書タイムでは読み物を読むこと、チェックシート週間には1冊持ち帰ることに取り組むことができ成果が見られた。 ・アンケートの結果「100冊読書」を目指して進んで読書をしている児童は、85%であった。 ・図書委員会を中心に図書室のイベントを行い、全校児童は楽しんで図書室に足を運んでいた。	・図書室に通う児童は増えているので更に1冊は読み物を借りること、朝の読書タイムでは読み物を読むことなど来年度も読書の質を上げるために継続していく。 ・1月末現在100冊達成71.4%	A	・パースデーブックの取り組みは、とても良い。
○子どもの活動づくり	全校集会と委員会活動、クラブ活動の充実 学級活動の充実	・「学校やクラスのために進んで活動している」と回答する児童を80%以上にする。 ・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を80%以上にする。	・委員会活動等の仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・振り返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。 ・委員会活動・クラブ活動では、自主的活動の企画実践の中で、児童の活躍の場を作り意識させて取り組ませる。 ・学級においても、仕事を担う意義を理解させ、活動時間を保障し、活動の支援や助言を行う。	A	・「学校やクラスのために進んで活動している」「責任を持って自分の役割を果たしている」と答えた児童は、95.6%であった。 ・高学年を中心に自主的活動に取り組んでいる。 ・児童の自己肯定感を高めるための手立てとして各委員会でも様々な活動を計画してもらった。	・職員の評価も高く(100%)児童の底上げはできている(95.6%)が「よくあてはまる」割合は前回よりも減っている。(70.3%→56.5%)	A		

② 「強く逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践								学校関係者 評価 (A~D)	意見 提言
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策		
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・毎日、朝食をとって登校する児童95%を目指す。 ・目標の就寝時刻に布団に入る児童を90%以上にする。	・毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事や睡眠の大切さを保護者に伝える。 ・朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 ・食育や睡眠の大切さについての授業を行う。 ・年に3回児童の就寝時刻と朝食喫食について調べ、生活習慣を見直す機会を設ける。 ＜就寝時間(布団に入る)の目安:低(9:00)中(9:30)高(10:00)＞	B	・学校評価アンケートでは、朝食の喫食率は97.3%で高かった一方で、就寝時刻を守っている児童は、80.6%にとどまった。 ・就寝時間についての職員の意識は向上しているが、指導が児童に届いていない。	・睡眠の大切さについての授業を行うとともに、家庭へも保健だよりや給食だよりを通じて啓発を行っていく必要がある。	B	・夜型の子どもが増えている。寝る時刻の設定を工夫してはどうか。 ・タイムマネジメントの教育が必要。 ・放課後の時間を長くしてあげる工夫を。
		運動習慣の定着化	・昼休みに外に出てよく遊ぶ児童を90%以上にする。	・いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割共遊、がんばるマラソン、久間リンピックチャレンジランド・スポーツチャレンジ) ・外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校的取り組みを行う)また、天気の良い日は外で遊ぶように放送で呼びかける。 ・スポーツテストの結果を活用した体育の授業を行う。	B	・学校評価アンケートでは、外で遊ぶと回答した児童が92.5%と、前回と比較して4.5%上昇した。マラソンや縄跳びに取り組む姿が多く見られた。 ・スポーツチャレンジでは、2年生が佐賀県1位を達成し、教育長賞を受賞した。	・気候も考慮しながら、今後も外遊びを奨励していく。 ・スポーツチャレンジの取組を全校に広げていく。	A	・運動場から、いつも子どもたちの元気な声が響いていて久間地区の宝。 ・元気のよい子が多い。 ・よい取り組みがたくさんできています。
	○子どもの活動づくり	縦割り活動の充実	・縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を90%以上にする。	・異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等を行ったりする自主的な活動の場を保障する。 ・異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。	A	・上級生のリーダーシップで自主的な良い活動となっている。 ・「他の学年の人と楽しく活動できている」の項目は96.8%と目標を大きく上回っているが、前回と比較すると1.1%減少している。	・今後も縦割り活動の内容の充実を図っていく。	A	・縦割り活動は、良い取り組みである。
③ 「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践								学校関係者 評価 (A~D)	意見 提言
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策		
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・道徳教育を推進し、心やさしい子の育成を図る。 ・道徳ノート等を活用し、深まりのある授業づくりをする。	・「心やさしい子」プロジェクト部会からふれあい道徳を提案する。また、職員の研修の充実を図る。 ・ふれあい道徳の実施にあたっては、地域人材の積極的活用や「学校便り」、「学級通信」等を通じた情報発信に努め、広く道徳教育への理解を図る。 ・自分の「夢や目標」について、道徳のカリキュラムの中で年に1回以上実施し、児童に自ら考える機会を持たせる。	B	・6月に全学年でふれあい道徳の授業実践を行った。また、道徳ノートを全児童に持たせた。学校で学んだことを家庭に持ち帰らせ、保護者から一言コメントを書いていただくなど、家庭との交流も図った。 ・出張していただく配布資料を全職員に配り、本校の重点項目や評価について改めて年度途中に確認した。 ・道徳の時間の学習に真剣に取り組んでいると答えた児童は、98.9%と高い。一方で、道徳の授業を年間計画や別様に基づいて計画的に実施していると答えた職員は、77.7%と低い。 ・児童玄関前に心コーナーを作り、児童のめあての作文などを	・毎週1時間の道徳の時間を大切にし、今後も指導を継続していく。 ・道徳の授業を年間計画や別様に基づいて計画的に実施していると答える職員が増えるように、職員打ち合わせなどで再度声をかけていく。	B	・道徳ノートの活用として、家庭に返し見てもらっていることがとても良い
		生徒指導の充実	・人の気持ちを考えることができる児童、85%以上をめざす。 ・自分からあいさつと、無言掃除の2つができると回答する児童80%以上をめざす。	・あいさつ、そうじ、思いやりの3点について月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に振り返りをし、児童の状況を評価しながら年間を通して学年に応じた指導を行う。 ・静かな落ち着いた環境のなかで、整然と掃除ができるように指導する。 ・掃除前の立腰タイムを毎日1分間実施する。	A	・友達の気持ちを考えて行動していると答えた児童は、96.8%であり、目標を達成できた。各月の生活目標を全校朝会で確認し、職員が共通して指導ができた。また、あいさつ、そうじ、思いやりの面で上手にできた児童を褒めて紹介することよくできた。 ・気持ちのよいあいさつと、無言そうじをしていると答えた児童は、94.6%であり、目標を達成できた。職員があいさつの手本を見せる姿勢を継続でき、児童も元気なあいさつをすることができた。掃除前の立腰タイムが定着し、無言そうじもようできた。	・新設した生活委員会などを通して、児童があいさつ、そうじ、思いやりなどを呼びかける活動を多く取り入れた。 ・登下校におけるあいさつが、十分とは言えないので、指導を継続する。	A	・子どもたちを褒めて伸ばすという取り組みはとても良い。なかなか褒めてあげられていないので、褒めて伸ばすを目指したい。 ・高学年の女子で挨拶ができていない子がいるのが気になる。
		一人ひとりのニーズに対応した個別指導の充実	・支援を必要とする児童の実態、支援の在り方について共通理解を図り、実践している職員を90%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を年3回以上実施し、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を確立する。 ・年2回以上外部講師を活用し、特別支援教育についてのスキルアップ研修を行う。 ・「子ども支援会議」で支援の必要な児童の実態について情報交換し、支援方法の検討を行う。	A	・特別支援教育に関する研修や校内研で特別支援学級や通級指導教室の授業も全職員で参観したことで支援を受ける児童の理解につながった。職員アンケートの結果も特別支援教育のスキルを指導に生かしているという職員割合が87.5%で中間報告より向上した。「大体あてはまる」と答えた割合を合わせると100%であった。	・次年度も授業公開などを通して具体的な支援の在り方を全職員で共通理解する。	A	・工夫されている点がたくさんあってよい。
	●志を高める教育	夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む教育の推進	・道徳の時間に、年1回以上、学級通信のなかで3回以上自分の「夢や目標」に係る学習や紹介をする。 ・年に2回、夢を実現できた人物を招き講話等を実施する。	・学校便り・全校朝会の講話のなかでも数回、夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む読み物の掲載や講話等を実施する。 ・グローバルデー事業に年3回以上取り組む。 ・ユメセンなど市の事業に積極的に参加することで、児童が自分なりの「夢や目標」をもつようになる。	B	・職員は、子ども達が夢や目標をもつことができるよう指導していると答えたのは、100%だが、児童は91.9%の児童が夢や目標をもって生活していると答え、やや数値が低い。「たい」の定期的な自己評価や作文コーナーでの掲示でも、できていることを自覚させる必要がある。 ・グローバルデーは、5・6年生で年3回実施し、ユメセンは5年生で実施でき、学びを深めることができた。	・各教科や「たい」などの短期目標や長期目標の定期的な見直しを行う。 ・講話や講話、事業の活用は継続して行う。	A	・児童と指導者の間にずれがないか。 ・高学年の数字が気になるところだが、どうか。(5年94.3% 6年96.3%が夢や目標を持っていると回答していた)

●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	児童アンケートを年2回を行うことにより、いじめを許さない意識付けを図り、早期発見・組織的な早期対応をおこなう。 ・人権集会(6月、11月)を実施する。 ・保護者啓発のため、ITサポート監修の研修会を実施する。 ・「相談できる人がいる」児童100%を目指す。	・人権集会を年2回(6月・11月)、児童へのいじめアンケートを年2回実施する。(6・12月) ・児童のアンケートを基に児童との面談を年に1回以上実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。 ・年1回、情報モラル研修会を実施する。 ・QUアンケートを年2回実施する。その効果的な活用を図るために研修会を実施し、児童の実態把握を行うことで支持的風土のある学級経営を行う。	B	・年2回の人権集会やいじめアンケートを計画的に実施し、職員は早期発見、対応によく心がけている割合も1回目より13%増加しているが、保護者と児童のアンケートでは、“ややあてはまらない、あてはまらない”の割合がわずかではあるが増加している。職員の取り組みが、効果的に作用していないと感じられる面があるのかもしれない。児童の様子にさらに目を向け、小さな変化にも対応する姿勢をもってかわることを継続していかねばならない。 ・情報モラル研修会を実施し、3年生以上の児童と、保護者43名の参加であった。 ・QUアンケートを年2回実施し、効果的な活用を図るため研修会も2回実施して学級経営に生かすようにした。	・アンケート実施後に、教育相談週間を計画し、児童の思いをしっかりと聞き取る時間を確保する。そのような取り組みを学校だよりや学級通信で家庭にも周知するようにする。 ・QUアンケートの実施を来年度も継続し、支持的風土のある学級経営につなげるようにする。	A	・アンケートを根拠にじっくりと話を聞いてもらうのはとても良い。 ・気になる子どもや家庭への訪問もよい。
------------	-------------	---	--	---	---	---	---	--

④ 保護者・地域との連携を深めるコミュニティースクール事業の推進

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価(A~D)	意見提言
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・職員の定時退勤日の退勤時刻励行についての意識を高め、実行できているを85%以上にする。 ・保護者や地域コミュニティとの連携により、働き方改革を呼びかけて、児童の指導についての依頼を工夫して、業務の改善を進める。 ・業務改善・働き方改革については、職員にアンケートを1回以上行う。	・地域コミュニティの見守りと連携して、児童の登下校に関わる業務を減らしていく。 ・業務改善・働き方改革については、職員にアンケート1回以上行い、それをもとにどのような業務の効率化が実現可能なかを見える化する。 ・見える化した業務について、2項目以上の実行を行う。 ・連絡用ホワイトボードの設置や行事黒板のIT化で業務改善を夏休みまでに実行する。	B	・職員の定時退勤日への意識化は社会の働き方改革の機運も伴ったこともあり中間評価66.6%から、78.6%と向上した。退勤の合図を音声で伝えるようにしたことや、早朝の見守り業務を地域にお願いで職員の負担を減らしたことが奏功したと思われる。 ・年度途中2月に放課後の補習や事務処理等の時間を確保する方向性を示し、試行したことで、優先順位を伴った業務の実施ができた。 ・連絡黒板のIT化が実行できた。	・働き方改革と定時退勤日へのさらなる意識化と実践化については、優先順位をつけ、勤務時間内に教材研究などの業務ができるように計画的な実施を行うようにしていきたい。 ・業務改善の一環として久間コミ活動など外部の人材活用も来年度はさらに計画的な実施をしていきたい。 ・来年度は新学習指導要領施行の年にあたり、今年度試行した校時の更新を実施する。時間の運用だけでなく、合理的で教育的な校時運用が実施できる準備をしていくことが必要である。		
	○保護者・地域との連携	保護者・地域との連携とコミュニティによる学習支援体制づくり	・保護者の授業参観率を80%以上にする。 ・久間コミ活動の年間計画に沿ってコミュニティによる学習支援体制を活用した授業や活動を実施する。 ・「地域の人たちと一緒に勉強することは楽しい」と思う児童を80%以上にする。	・学校だよりやホームページ等で早めに授業参観日を知らせ、保護者が計画的に参加しやすいようにする。 ・各教科や総合的な学習の時間における年間計画を作成し、学校運営協議会や地域コミュニティ青少年部会などコミュニティと連携強化を図りながら、地域の教育力を生かした取組みを推進する。	A	・11月の「久間つ子集会」の参観率は98.5%、1月の授業参観率は80%で、これまでの平均は84.5%となり、目標を達成することができた。特に「久間つ子集会」では、家族揃って、また地域の方も来校され、全体で261人の参観があった。また、夏休みの除草作業でも、児童(3年生以上)は96%、保護者87%と高い参加率であった。 ・久間コミ活動では、これまでの実践の積み重ねで、充実した活動ができた。「地域の人たちと一緒に勉強することは楽しい」と回答した児童は、95%を超えた。地域連携活動の意義を再確認することができ、活動のねらいを明確にして年間指導計画を見直しすることができた。	・来年度も、学校行事について早めのお知らせをしていく。また、授業参観の内容等について学級便りやPTA総会や学級PTAでも取り上げ、しっかり伝えてもらうようにする。 ・ゲームの問題については、PTA総会や学級PTAでも取り上げ、しっかり考えてもらうようにする。 ・来年度は、子育てについて考える教育講演会を開催する。 ・地域連携活動については、作成した教育計画に沿って計画的に進める。ねらいを明確にし、前年度の担当者・担任と相談をしながら、よりよい活動になるようにしていく。		

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・久間コミ活動については、学校と地域コミュニティの間で目的や内容を共有し、コミュニティ事務局長を中心に人材活用などをきめ細かく実施してもらうことができた。子どもたちのアンケート結果を見ても、2回目には「地域の人と一緒に勉強することは楽しい」と回答した児童が大幅に上回る結果であった。「社会に開かれた教育課程」は、学校教育を学校内に閉じずにその目指すところを社会と共有・連携しながら実現させることと示している。学校運営協議会委員の中からも、久間の子どもは、学校と家庭地域でともに育てていくことが肝要という意見が出されている。本校教育の中でもまた、体験活動をカリキュラムレベルへの落とし込みを十分に行って各学年ごとに教科横断的な学習単元を仕組んでいくことを見通していく必要がある。

・学力向上の面では、「朝食をきちんととって」毎朝元気な登校し、学校での学習に臨む準備をすることは、家庭で十分に実行してもらっている。今年度の校内研究ではユニバーサルデザインの視点を取り入れたどの子も「わかる できる」授業づくりを企画し実践した。この結果教室の全面掲示の標準化や基本的学習過程の定着などが実行できた。「主体的対話的で深い学び」の実現はこのようにスタンダードな授業形態や指導過程を基本におくことで始まることから、今後も継続して来年度の課題としていきたい。

・生徒指導と特別支援教育、縦割り活動、道徳の時間の充実など、心の教育の取り組みも、プロジェクトを中心に提案されてすべての職員が一体感をもって協働した。「学校に来ることが楽しい」と答える児童が90%に上っているが、残りの10%の児童に寄り添い、家庭と連携しながら個別の対応をしていくことが大切である。

・本校の児童の特徴として、読書への関心の高さと、外遊びや運動への関心の高さがあげられる。取り組みの中では、読書回覧板やバースデーブックプレゼントへの取り組み、久間リンピックやスポーツチャレンジの取り組みを実践できた。来年度はすべての学年でさらに充実した取り組みにしていきたい。

・課題は、以下の3点を挙げておきたい。まず、「ゆめ 志を高める教育」の改善である。この課題は今年度の嬉野市教育委員会訪問でも取り上げて、ディスカッションをした。本校は久間コミ活動が充実しており、短期の目標を持つことはしっかりとできる。今後は、「将来の夢」という大きなくくりでなく、「今自分が好きなことや得意なことを伸ばしていこう」という視点や、市や商工会議所の取り組み「ユメセン」「ドリームハンズ」でのキャリア教育的な取り組みに、たくさんの児童がすすんで参加するように呼び掛けることもしていきたい。2点目は「業務改善と教職員の働き方改革の推進」である。教職員の意識改革が必要であるが、まず、校時表を見直し、放課後の時間を捻出することにより教材研究・評価・年休の取得の時間等の時間を計画的に取ることができるようにしていきたい。3点目は「PTAとの連携強化」である。学校の教育活動に、PTA活動がいまよりも多くかかわることができるように、本部の組織構成や選出方法を工夫したり、地区のPTA会長が自分の地区の登校班の見守りをもっとできるように、していく必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目